

さあ、作ってみるもん！使ってみるもん！

個別の教育支援計画（石狩モデル）「さあもん」

＜中学校版＞

～子どもたち一人一人の未来へのメッセージ～

【 記 入 例 】

石狩管内特別支援連携協議会
石狩管内専門家チーム会議

個別の教育支援計画シート I (中学校用)

～これまでの様子と現在の支援の状況～

学校名	〇〇市立△△中学校	作成年月日	平成	26	年	3	月	10	日		
記入者	◇ ◇ ◇ ◇	学年	2	生年月日	平成	13	年	5	月	7	日
ふりがな	さもん あきこ	性別	女	担任名	◇ ◇ ◇ ◇						
生徒名	左 門 秋 子			所属学級	自閉症・情緒障がい特別支援学級						
家族構成	父、母、兄(高校2年)										
主障がい	自閉症	診断名	広汎性発達障がい			手帳の有無	無		手帳種	判定	

●小学校での様子(小学校から「個別の教育支援計画」等による引継ぎがない場合に活用)

内 容	支援の内容	支援の結果
学習面	・達成可能な課題を設定したり、達成時に賞賛したりした。	・達成時に賞賛されることが学習に対する意欲の向上につながった。
生活・行動面	・苦手なことでも、嫌がらずに取り組むことができるよう、写真カードや絵カードなどを活用し、活動に見通しをもたせるようにした。	・苦手なことも見通しをもたせることで、嫌がらずに活動できるようになってきた。
コミュニケーション	・文字や文章表示など、視覚的に分かりやすいコミュニケーション手段を活用した。	・視覚的な支援を行うことで、適切なコミュニケーションをとることができるようになってきた。
運動・動作	・細かな作業が苦手なので、自立活動の時間にアイロンビーズや折り紙など、手指を使う学習を多く取り入れた。	・細かな作業は現在も苦手ではあるが、30分程度集中して取り組むことができるようになった。

●相談の記録

項 目 相談機関	時期・期間	相談内容	担 当
就学相談 〇〇市教育委員会	平成17年	・就学の場について	◇◇特別支援教育担当係長
学習相談 北海道立特別支援教育センター	平成16年～平成20年	・適切な学習指導の進め方について	◎◎研究員
発達相談 〇〇市発達支援センター	平成17年～現在	・コミュニケーション能力の向上について	■■指導員

●現在の支援の状況

支援機関	支援の内容	連絡先・担当
〇〇市発達支援センター	・ソーシャルスキルトレーニングを行い、コミュニケーション能力の向上を図る指導を行っている。	住所：〇〇市〇〇町5丁目4-3 TEL：〇〇〇-〇〇〇〇 担当：■■指導員
		住所： TEL： 担当：
		住所： TEL： 担当：
		住所： TEL： 担当：

個別の教育支援計画シートⅡ(中学校用)

～現在の様子と合理的配慮の内容～

学校名	〇〇市立△△中学校			平成	26	年	3	月	10	日	
記入者	◇◇◇◇	学年	2	生年月日	平成	13	年	5	月	7	日
ふりがな	さもん あきこ	性別	女	担任名	◇◇◇◇						
生徒名	左門 秋子			所属学級	自閉症・情緒障がい特別支援学級						
家族構成	父、母、兄(高校2年)										
主障がい	自閉症	診断名	広汎性発達障がい			手帳の有無	無	手帳種		判定	

※シートⅠを作成している場合は、上記の記入は不要です。

●現在の様子

	家庭での様子(年度始め)	家庭での様子(年度末)	学校での様子(年度始め)	学校での様子(年度末)
学習	・家庭での学習は、そばについて教えながら行くと、宿題が終わるまで取り組むことができる。	・宿題に一人で取り組むようになった。	・計算問題は得意であるが、文章題は苦手である。 ・国語の学習が苦手で、国語の時間は集中力が15分程度しか持続しない。	・パソコンの学習に対する興味が高くなった。 ・国語の時間の集中する時間が10分程度長くなった。
認知・記憶	・前の日に伝えたことを、次の日には忘れてしまうことが多い。	・忘れないように、自分でメモを取るようになった。	・視覚から情報を得ることが得意で、聞いたことは覚えることが苦手である。	・聴覚的な理解の苦手さには変化が見られない。
コミュニケーション	・兄に対して、すぐにカッとなり、乱暴な言葉づかいをする。 ・父親が大好きで、必要以上にベタベタしてしまう。	・兄に対する態度は変わらないが、父親とは適切な距離感を保てるようになった。	・思ったことをすぐに口にするため、友だちとトラブルになることが多い。	・SVからの助言を受け指導を行い、友だちとのトラブルは減ってきている。
運動・動作			・走る、跳ぶなどの運動は得意であるが、ボールを使った運動は苦手である。	・バスケットボールなどの大きなボールを使った運動の技能は上達した。
生活	・家の手伝いを進んで行ってくれる。 ・自分の部屋を片付けるのが苦手である。	・家庭では、年度始めの様子とはあまり変化は見られない。	・給食当番は、自分から進んで取り組んでいる。 ・掃除の場面で、友だちとトラブルになることが多い。	・掃除の場面でのトラブルも減ってきている。

●特記事項(健康上の配慮事項(アレルギーなど)・検査結果・生育歴等)

- ・ナッツアレルギーがあり、食べるとじんましんが現れるので、病院へ搬送する。
- ・WISC-Ⅳ：実施日：平成25年1月30日
全検査IQ〇〇、言語理解〇〇、知覚推理〇〇、ワーキングメモリー〇〇、処理速度〇〇

●学校における合理的配慮の内容

観点	支援の内容	
教育内容	学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮	・「適切な対人関係を築く困難さ」が見られることから、人間関係の構築の困難さを補完する指導を行う。
	学習内容の変更・調整	・自立活動の時間を位置付けるなど、実態に応じた適切な教育課程の編成を行う。
教育方法	情報・コミュニケーション及び教材の配慮	・視覚的に分かりやすい支援を行う。
	学習機会や体験の確保	・行事等では見通しをもった活動ができるよう、事前に活動内容を具体的に伝える。
	心理面・健康面の配慮	・本人の様子を連絡帳により情報交換を行う。
支援体制	専門性のある指導体制の整備	・教育局の特別支援教育スーパーバイザーを活用し、指導助言を受けるとともに、「校内研修プログラム」を活用した、特別支援教育に関する研修会を行う。
	生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮	・周囲の生徒に対し、本生徒の特性を踏まえた「かわり方」を日常の活動の中で、さりげなく伝え、理解を深める。
	災害時等の支援体制の整備	・学校の防災計画の中に支援体制を明記する。
施設・設備	校内環境のバリアフリー化	
	発達、障がいの状態及び特性に応じた指導ができる施設・設備の配慮	・落ち着かなくなったときにクールダウンできる教室を準備しておく。
	災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	・体育館にパーテーションを準備しておく。

個別の教育支援計画シートⅢ(中学校用)
～教育的ニーズと支援の目標～

●本人・保護者の願い		
	現在の希望	将来の希望
本人	・商業高校に進学し、パソコンの勉強をしたい。	・パソコンを使った仕事に就きたい。
保護者	・人とうまくコミュニケーションがとれるようになり、友だちとのトラブルをなくしたい。	・高校、大学と進学し、自立した生活を送ってもらいたい。

●教育的ニーズの選定	
本人のよさ	よさを踏まえた教育的ニーズ
・手伝いや係活動を進んで行う。 ・自分の好きなことには集中して取り組むことができる。	・本人の特性を踏まえた指導や支援を行い、適切なコミュニケーション能力を身に付ける。 ・学級担任や教科担任、支援員の指導や支援を受けながら、本人のよさを伸ばすとともに、苦手なことにも取り組むことができるようになる。

●課題・支援の目標			
	課 題	支援の目標(長期)	評 価
①	・友だちと適切なコミュニケーションをとることが苦手である。	・本人の特性を踏まえた指導を行い、適切なコミュニケーション能力を身に付ける。	長期目標の期間は生徒の実態に応じて2～3年の期間を設定し、評価してください。
②	・苦手な教科になると、学習意欲が著しく低下する。	・本人の特性を踏まえた学習課題を設定し、学習に対する意欲の向上を図る。	
③			

●支援内容・機関				
支援の目標(短期)	支援機関	支援内容	支援の手立て	評価: 成果(○)と課題(●)
友だちとのトラブルを1日に5回以内にする。 (長期目標①)	〇〇市立△△中学校	・自立活動の時間を位置付けるなど、実態に応じた教育課程を編成する。	・発達支援センターと連携し、自立活動の時間にソーシャルスキルトレーニング(SST)を行う。	○SSTを行ったことにより、コミュニケーション能力の向上が図られた。 ●トラブルが5回以上ある日も見られるので、継続した指導の必要がある。
	〇〇市発達支援センター	・週2回SSTを行う。	・ソーシャルストーリーを用いたSSTを行う。	○相手の気持ちを考えて話ができるようになってきている。 ●場にそぐわない発言などが見られるので、継続した指導の必要がある。
苦手な教科でも20分集中して取り組むことができるようになる。 (長期目標②)	〇〇市立△△中学校	・スモールステップでの指導を行う。	・達成可能な学習課題を設定し、達成したときには賞賛する。	○スモールステップで指導を行ったことで、20分集中できるようになった。 ●教科によっては集中が持続しない場面が見られた。

引継ぎシート(中学校→高等学校)

●生徒指導上の特記事項		
生徒指導上配慮すべき事項	支援の状況	支援の結果
<ul style="list-style-type: none"> 思ったことをすぐに口にするため、友だちとトラブルになることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達支援センターと連携し、SSTを実施するなどの支援を行ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちとのトラブルは改善されてきている。

●性格・行動上のよさと配慮すべき事項		
よ さ	中学校でのよさを生かした活動等	高等学校での活動で力を発揮すると思われる事項
<ul style="list-style-type: none"> 先生に頼まれたことや自分の役割に、最後まで責任をもって取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 係活動などでは、リーダーにするなどし、自信をもたせるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 係活動などで、責任のある立場や役割を任せる。
配慮すべき事項	支援の状況	支援の結果
<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えが認められないときに興奮してしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 興奮してしまったときには、別室に連れて行き、落ち着かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 別室に連れて行き、落ち着かせることで、その後の活動はスムーズに行うことができる。

●その他、高等学校への引継ぎ事項
<ul style="list-style-type: none"> 特性に応じた支援を行うことが必要なので、今後も発達支援センターや教育局との連携を継続し、高等学校においても適切な支援を行ってほしい。